

税金がつなぐみんなの笑顔

つくば市立竹園東中学校 9年 八田 暁美

母は言った。「あなたは、たくさんの人達に助けられながら生きてきたのだ。」と。私は先天性難聴だ。静かに目を閉じて思い起こしてみると、これまでお世話になったたくさんの人達の笑顔が頭にうかんできた。生後数日の頃から診察でお世話になっている耳鼻科の先生、補聴器調整担当の言語聴覚士さん、聴覚支援学校の先生、そして小・中学校の支援学級の先生や支援員さん。しかし税について考えた今、私ははっとした。これまでに私を助けてきてくれたのはもっとももっと多くの人達、それも名前も知らないまだ出会ったことのない人達も含まれるのだ、ということに。

私は生後一か月の頃から補聴器を使用しており、これまでに三回買い換えた。実はこの補聴器、眼鏡とは異なり、かなり高額でかつ汗や水に濡れると壊れてしまう精密機械だ。私にとって補聴器は、片時も離せない大事なパートナーであり、体の一部だと言っても過言ではない。私が小学生の頃に障害者手帳を持たない軽・中等度難聴児補聴器購入補助制度がつくば市でも開始され、母が安堵していたことを覚えている。想像してみた。もし補助制度がなかったら、たった十五年間で難聴という面だけに関してどれほどの費用がかかったのだろうか。病院での定期検査や手術、生後三か月から小学校入学まで通った支援学校、そして小・中学校の支援学級で受けた支援員さんによるパソコンテイクなどのサポート。税制度がなければ、とてもではないがすべてを満足になど受けられなかったと思う。税制度が根本にあり、その上で先生方がより添いながら力を注いでくださったおかげで、大きな不自由なく楽しく過ごすことができた。当たり前前に感じていたこの日常は、実は税の恩恵によるものだったのだ。この支援があったからこそ、今私は税に対する感謝の気持ちを誰よりもかみしめられているのだと思う。

当たり前前の幸せな日常は、税制度があるからこそそのもの。これは、私に限った話ではない。この日本に生きる誰しものが「税」に助けられながら生きているのだ。誰かが納めた税が、誰かの生活を豊かにし、誰かの心の幸せにつながる。税を納めることで幸せの連鎖が生み出され、多くの人々の笑顔につながるのだ。税制度は心の余裕を生み出してくれるもの。心に余裕が生まれることで人は笑顔になれる。それが、税制度の根源なのではないだろうか。

生まれながらにして難聴を抱えながら人生をスタートした。たまに、「大変だね。」と言われることがあるが、そのことに私は違和感を持つ。なぜならば、数多くの人に支えられ様々な経験をしてくることができ実は誰よりも豊かな人生を送ることができているのではないかと感じるからだ。税制度がもたらしてくれるこの環境に感謝し、今度はその感謝を更に大きなものにして、皆に返していけるような人間になりたい。まだ出会ったことのない、未来の誰かの笑顔につなげるために。